

大阪から関西・全国へ！サステナブルファッション・プラットフォーム協議会設立

「産官民一体」で使用済衣類のサーキュラーエコノミー実現に向けて

2030 年度に年間 8,000 トン以上の使用済衣類回収を目標

～環境省推進「使用済衣類回収システム構築に関するモデル実証事業」2 年連続採択～

2024 年度より、民間企業と大阪府が共同で衣料品の地域共創型サーキュラーエコノミーの構築を目指した取り組みがスタートしました。この取り組みは、環境省が推進する「使用済衣類回収のシステム構築に関するモデル実証事業」として 2 年連続（2024 年、2025 年）で採択されています。そして本取り組みを 11 月 25 日（火）より、「サステナブルファッション・プラットフォーム協議会」として新たに設立いたします。

サステナブルファッション・プラットフォーム 協議会

サーキュラーエコノミーの推進や、2050 年のカーボンニュートラル達成にも寄与する豊かな地域社会の実現を目指し、同じ想いで集まった各企業や地方自治体等が協力して、回収、運搬、分別・再利用、再資源化を行い、一つずつ課題を明らかにし、解決策を検討してきました。本協議会設立により、大阪からサステナブルファッションをさらに推進していきます。

【本リリースのトピックス】

<これまでの取り組み>

民間企業と大阪府が共同で衣料品の地域共創型サーキュラーエコノミーの構築を目指した取り組みがスタート。環境省モデル実証事業（oH0Hoサイクルプロジェクト）として、不要になった衣類を回収・選別後、再販やマーケットニーズに合わせてリサイクルへとつなげています。

<協議会設立の背景>

大阪府では、循環型社会の形成に向けて、さまざまな分野において資源循環の取り組みを行っています。そのような中で、環境省モデル実証事業のさらなる発展、また大阪から使用済衣料の廃棄量を減らし、繊維 to 繊維リサイクルを実現させ、サステナブルファッションを推進していくために協議会を設立いたしました。

<協議会としてのビジョン、活動方針>

地域社会の豊かな未来に貢献するため、サプライチェーンが一体となった、衣類における地域共創型サーキュラーエコノミーの実現を目指します。

- ① 生活者が手軽に衣料品回収に取り組める環境を整え、継続できる透明性の高い衣料品回収システムの構築
- ② 回収した衣類の循環利用・サステナブルファッションのマーケット開拓

<目標数値>

- ① 2030 年度に大阪府下で焼却・埋め立てされる使用済衣類を 8,000 トン削減（2020 年比）することを目指し、年間で 8,000 トン以上の使用済衣類を回収
- ② 国内での循環利用（リユース、リサイクル）で年間 3,500 トンを処理

【サステナブルファッション・プラットフォーム協議会、ステートメント】

私たちは、使用済衣類のサーキュラーエコノミーに向けた政府目標の実現を目指し、大阪から関西・全国へと、協力して、気づき、成長・発展する活動の場を提供します。以下、活動のステートメントを掲げます。

1

気候変動・
資源循環
への貢献



2

政府目標の
共同実現



3

政府との連携



4

地域との
課題解決



5

費用低減の
追求



6

高付加価値
取引の実現



7

資金調達力
の強化



8

生活者志向



9

再生繊維市場
の創出



- ① パリ協定に賛同し、CO2 排出量を削減する使用済衣類のサーキュラーエコノミーに取り組み、会員の環境対応や情報開示を促進します。
- ② 「使用済衣類の廃棄を削減し、繊維 to 繊維リサイクルを実現する」政府目標の実現に向け、回収、運搬、分別・再利用、再資源化や他業種等の会員と、お互いに尊重しあい、広く協力して課題を解決します。
- ③ 省庁等との密な連携・協議を志向し、政策提言等を行うことで、調査、研究開発、実証、社会実装等に関わる補助金や、規制の整備・見直し等、会員にとって必要な環境づくりを進めます。
- ④ 地域との連携を深めながら、使用済衣類の回収、リサイクル・リユース等に取り組み、地域インフラの最適化や課題解決にも貢献します。
- ⑤ 回収・運搬、技術開発・処理施設導入の費用等について、会員全体で、規模の経済を効かせることや、社会における拋出のあり方を構想すること等、互いに協力して低減させる解決策を検討し、持続可能な取り組みを目指します。
- ⑥ 使用済衣類の廃棄を削減するべく、トレーサビリティを確保し、啓発すること等を通じて、循環性の価値を確立し、高付加価値取引を実現します。
- ⑦ 例えば、複数の会員が、サーキュラーエコノミーを共同で進めるコンソーシアムを組成し、事業資金の調達を容易にする等、一企業だけでは進めづらい資金調達を強化します。
- ⑧ 小売業の会員に、生活者や地域と、サーキュラーエコノミーの輪を作る各会員の「つなぎ役」になる機会を提供し、生活者のニーズに寄り添い、行動変容を促し、生活者目線で需要を生む取り組みを進めます。
- ⑨ 上記を通じ、繊維 to 繊維リサイクルに向けた環境を早期に整え、将来、希少性が高まる再生繊維に会員が優先的に安価にアクセスできる市場を生み、経済合理的に、大阪から関西・全国へと成長発展します。

【ビジョン・活動方針と目標】

<ビジョン>

地域社会の豊かな未来に貢献するため、サプライチェーンが一体となった、衣類における地域共創型サーキュラーエコノミーの実現を目指します。

<活動目的>

大阪から、サステナブルファッションを推進するため、使用済衣類の再利用（リユース、リサイクル等）によりサーキュラーエコノミーへの移行を促進し、使用済衣類の廃棄を削減します。

<活動方針>

- ① 生活者が手軽に衣料品回収に取り組める環境を整え、継続できる透明性の高い衣料品回収システムの構築
- ② 回収した衣類の循環利用・サステナブルファッションのマーケット開拓

<コミットメント>

- ・メンバーは各々の強みを活かしながら、業種の垣根を超え共創します
- ・本プラットフォームは、常に公平性を尊重し、中立性と社会性のある取り組みを推進します
- ・CO2 排出量の削減率など、取り組みによる効果を可視化します

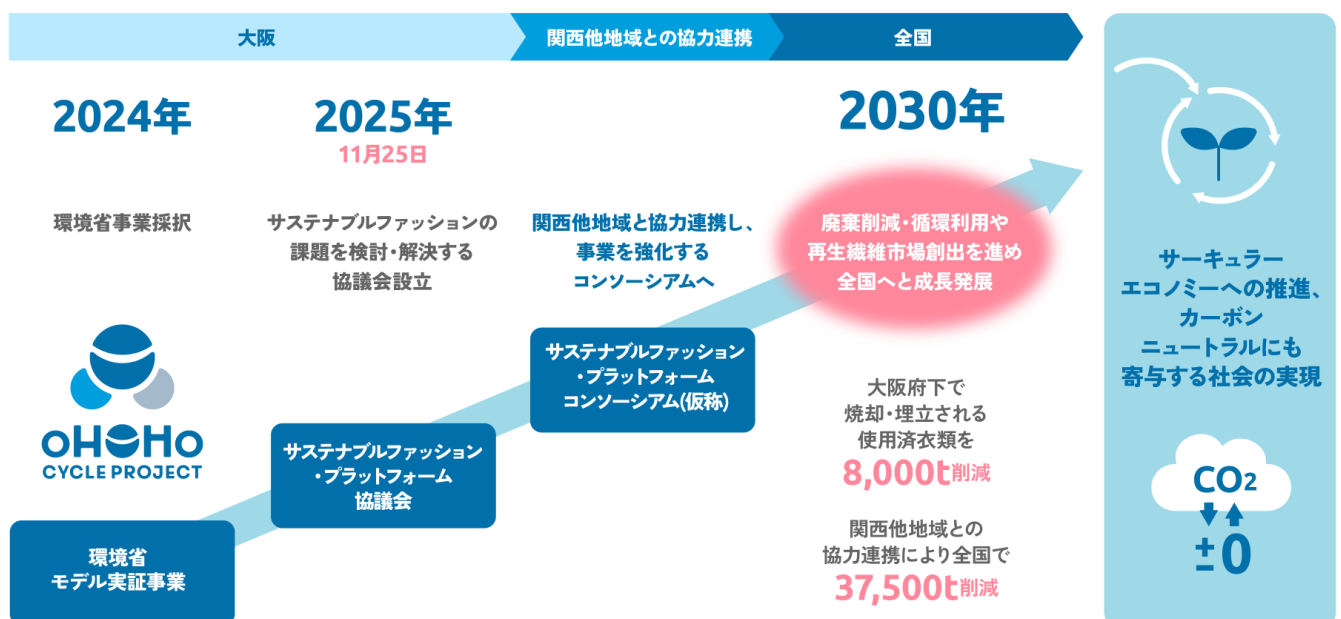
<量的目標>

- ① 2030 年度に大阪府下で焼却・埋め立てされる使用済衣類を 8,000 トン削減（2020 年比）することを目指し、年間で 8,000 トン以上の使用済衣類を回収
- ② 国内での循環利用（リユース、リサイクル）で年間 3,500 トンを処理

<全体像>

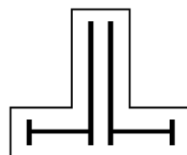
私たちは、大阪で本協議会を立ち上げ、サステナブルファッションの実現に向け、
回収システムを構築し、関西他地域に広げます。
循環利用※の事業性に力を入れたコンソーシアムに成長し、再生繊維市場を生み出し、全国へと発展します。

※ 循環利用・・・リユースやリサイクル等



【協議会参画企業、自治体】

 青山商事株式会社



株式会社 阪急阪神百貨店



株式会社 エイチ・ツー・オー商業開発

JR西日本SC開発株式会社

F.CDM
Fiber cdm co.,ltd

 Earth hacks & Co.

 shikibo

MORIRIN
The Standard

 住友大阪セメント株式会社



 大阪府

 堺市
SAKAI CITY

 吹田市
SUITA CITY

 泉佐野市
IZUMISANO CITY

 藤井寺市
FUJIIDERA CITY

【体制図】

繊維製品における資源循環ロードマップ実現に向けた協議会の活動体制(予定)

サステナブルファッション・プラットフォーム協議会

日本総合研究所(事務局サポート)



回 収

(環境省モデル実証事業2024年、2025年採択)

青山商事/エイチ・ツー・オー リテイリング
阪急阪神百貨店/エイチ・ツー・オー商業開発
JR西日本SC開発/大阪府
泉佐野市/堺市/吹田市/藤井寺市

地域行政との協力連携

様々な地域行政の皆様と対話
※ 今後、新スキームを研究

生活者との連携

地域生活者、店舗等への来店者との連携

制服・作業着の取扱等

ロジスティクス

ファイバーシーディーエム

選別・リユース

トレーサビリティ

シキボウ、モリリン

リサイクル

住友大阪セメント

脱炭素効果の可視化: Earth hacks

主な活動内容(予定)

- 最新動向の調査・共有
- 会員企業等のマッチング
- 使用済衣類の回収・リユース・リサイクル事業
- CO2排出量削減施策の検討
- 商品価値を高めるトレーサビリティの確立
- 使用済衣類に関連する地域課題解決
- 補助金整備等を含む政策提言
- 官民連携での生活者への啓発活動
- 繊維to繊維リサイクルの実現

※ oHOHo CYCLE PROJECTは、環境省 令和6年度補正予算 使用済衣類回収のシステム構築に関するモデル実証事業に基づいており、サステナブルファッション・プラットフォーム協議会の前身となる取り組みです。

【環境省モデル実証事業（oHOHo サイクルプロジェクト）】



地域社会の豊かな未来に貢献するため、サプライチェーンが一体となった、衣類における地域共創型サーキュラーエコノミーの実現を目指します。

<プラットフォームの構成>

回収：回収拠点の設置

運搬：回収物の運搬

選別：衣料品の選別、トレーサビリティ

循環利用：リセール、リサイクル

製造：環境に配慮した設計、製造

販売：循環利用された製品の販売

その他

【2024 年度の取り組み】※2025 年度は 6 月 23 日～12 月 19 日の期間で取り組み中

<実証期間：2024 年 6 月～12 月>

① 回収拠点を協働展開 期間 2024 年 10 月 9 日～12 月 1 日（54 日間）

※拠点によって異なります。

協働回収拠点数 目標 50 拠点 結果 65 拠点

回収量 目標 5,000 kg 結果 4,932 kg

② 回収・選別の一元化

回収された衣類を選別する技術を持ち、国内最大規模の工場（大阪府泉南市）を有するファイバーシーディーエムで一元的に実施することで効率的な回収からの循環を実現。

結果 事業全体に加え、回収拠点別に回収量及び選別割合を算出

③ 効果の測定と可視化

大阪府が事業連携協定を締結している Earth hacks が提供する、シンプルかつ訴求力のある「デカボスコア®」の活用。

結果 27,209 ⇒ 648 (kgCO₂e)

④ 回収後の活用検討

再利用（リユース）可能な衣類は、ファイバーシーディーエムが保有するショップ等でリセール。また、マーケットニーズに合ったリサイクル製品の開発の検討も行い、その製品に見合った再資源化事業者・製造者の開拓を行い、可視化する。

結果 協業メンバーの多様なネットワークから再資源化事業者・製造者の可視化までを実施

【入会条件と会員ごとの主な活動内容】

会員の役割	入会条件・活動内容	主なメリット
回 収	●生活者が衣類の回収に容易に協力できるよう、<u>店頭や自社施設内で回収拠点を設けること</u> ●回収した衣類の(一定期間の)保管、集約、運搬・選別パートナーへの<u>引渡しに協力</u>できること	●回収事業への容易な参画
運 搬	●効率的な運搬計画を策定・提案できること ●より環境負荷の低い運搬方法を目指し、協力できること	●運搬機会の拡大
選 別	●循環利用(リユースやリサイクル等)に必要な衣類の<u>選別</u>ができること ●選別した衣類の<u>トレーサビリティ(重量・選別割合)</u>を確立、開示できること ※ 国外へ輸出する場合は、輸出後も含む	●選別機会の拡大
循環利用 (リユースやリサイクル等)	●国内での<u>循環利用</u>ができること ●リサイクルの場合、水平リサイクル等の<u>高度なリサイクル</u>や、より環境負荷が低く、生活者のニーズに合った循環利用のため、既存のアイデアにとらわれない取組みができること ●高度なリサイクル方法や回収した衣類(素材)の利用に関して、保有する<u>科学的な知見・ノウハウ・設備等</u>を活用し、協力できること	●繊維to繊維リサイクルへとつながる循環利用機会の拡大
製 造	● <u>環境配慮設計</u> (リサイクルのしやすさ、再生材料の積極的な使用、適正な品質表示等)や製造について協力できること	●再生繊維への優先的アクセス
販 売	●本プラットフォームで循環利用された製品の販売等について協力できること ●店頭または自社施設内で循環利用された製品の販売場所の提供や周知活動ができること	●トレーサビリティが確保された製品販売 ●再生繊維由来製品の販売
その他 (特別会員含む)	●本プラットフォームのビジョンのもと、<u>生活者の意識改革や行動変容への働きかけ</u>等、各々の強みを活かした協力ができること ●循環利用の<u>環境効果の見える化</u>、必要なデータの取得、運用改善等の検証、提言について協力できること	●事業機会の拡大 ●地域課題の解決

なお、上記の全ての役割に共通する、入会条件・活動内容として、会員は、サステナブルファッションに関する情報発信も担います。

※ また、会員の役割は、必ずしも、上記の区分で厳密に分けるものではなく、例えば、一部分、他の役割を担う等して活動いただくことも可能です。詳細についてのお問い合わせ等は、前述のお問い合わせ先にご連絡ください。

【組織体制図】

